

INFORMATION お知らせ

秦和会 からののお知らせ

高橋幸枝理事長の出版物が 好評発売中です

秦和会、成和会の理事長として、102歳になった現在もなお、はたのグループを牽引する高橋幸枝理事長。100歳を超えても元気に過ごすその姿が共感を呼び、数多くのマスコミから取材をいただてきました。

常に前向きな生き方を貫く高橋理事長の言葉をまとめた本が出版され、多くの皆様方にお読みいただいております。皆様も高橋理事長の健康長寿の秘訣に触れられてはいかがでしょうか。

「小さなことの積み重ね」マガジンハウス /

「こころの匙加減」(万年日めくりカレンダーも発売中) 飛鳥新社 / 「そっと無理して、生きてみる」小学館 / 「101歳の習慣」飛鳥新社



成和会 からののお知らせ

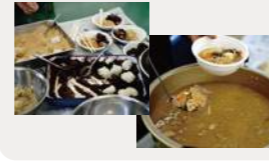
昨年の12月28日に恒例の餅つきを行いました。利用者の方々と日頃体験できない季節の伝統行事を行い、新年の無病息災を願いました。

皆さまにおかれましても、素晴らしい一年となりますように心よりご祈念申し上げます。



▲秦野病院の笠原院長にもダイナミックに餅をついていただきました。

できあがった餅は豚汁と一緒に皆でお楽しみいただきました。



はたのグループの研修

はたのグループでは、2年前から、コミュニケーションの向上や支え合える関係づくりなどを目的として、『ビジョン実現コーチ』の大図美由紀先生にご協力いただき、職員への継続的な研修を行っています。コーチングとは、人材開発の技法の一つで、対話によって相手の自己実現や目標達成を図ることで知られています。

今年度は、マネージャー層を中心に、テーマに沿って、ディスカッションを行い、それぞれの目標や一歩進める行動を明確にしています。グループ間、部署間をまたいでの研修ですが、お互いの想いを共有し、承認し合い、支え合える関係へと繋がっていると感じています。これからもはたのグループスタッフ一同、研修を活かして、皆様に選んでいただける組織づくりを目指していききたいと思います。(記：グループ研修担当)



ビジョン実現コーチ
大図 美由紀

山一証券で、毎月連続、営業上位メダルを獲得。「顧客と一緒に喜び」嬉しさを経験。

外資系損害保険会社にて、新規事業立ち上げに参画。その後、証券システム会社で、社長の右腕として、管理部門全般に携わる。

現在は、アドラー心理学のコーチングを使って、「理想に向かって、仲間と一緒にワクワク進む組織を創りたい」経営者と組織の人材育成および組織づくり顧問としてサポートをしています。

ワクワクはたらく株式会社

HP: <http://miyukiozu.com/>
FB: <http://www.facebook.com/miyuki.ozu>
TEL: 090-9800-2152

発行者

はたのグループ 広報チーム

0463-75-0032

所在地：秦野市三屋 131 番地

編集後記

表紙写真にご協力いただいた職員

はたのグループ
職員の皆様 (氏名省略)

患者様・利用者様の想いを実現するため、はたのグループでは、様々な職種の職員が連携し、サポートを行っています。

今回表紙は多職種連携が表現できればと職員集合写真に挑戦。個性豊かな皆さんの足並みをそろえるのに一苦労でしたが、結局は女性陣の写真映りを優先してこの1枚に落ち着きました。



はたのグループ広報誌

心の笑顔

vol. 3

2019年03月

はたのグループの、今とこれからをお届けする広報誌

はたのグループ
医療法人社団 秦和会・社会福祉法人 成和会

INDEX

- 特集 「はたのグループのブランディング」・・・P1
「はたのホーム・リンクにおける新サービス」・・・P2
シリーズ はたのグループのリーダー達 vol.3 「子どもメンタルクリニック 院長 佐藤喜一郎先生インタビュー」・・・P3
- ・1分でわかる！職員たちのQ&Aコーナー「あなたの出身県は？」P4
 - ・SPOTLIGHT 職員紹介「柳原 由紀子」と「高津 茂幸」・・・P4
 - ・はたのグループの事業所・・・P5
 - 「秦野病院 栄養課」と「秦野病院 デイケア」と「はあとすまいる」
 - ・はたのグループのサービス 安心のサポート体制・・・P6
 - ・INFORMATION・・・BACK PAGE
 - 「秦和会からののお知らせ」と「成和会からののお知らせ」と「はたのグループの研修」



「心の笑顔」を皆様へ 職員一丸となって！

特集

はたのグループのブランディング

対談メンバー | 株式会社 KOZAKIKAKU 代表取締役 小崎直利
秦野病院 地域サービス部 広報企画担当 渡辺あゆ子

はたのグループでは、ロゴマークをはじめとする視覚的なデザインを整備し、外部、内部に向けた情報発信やグループとしての考え方などを浸透させていくために、「ブランディング」に取り組んでいます。



グループのブランディングは、小崎直利（こざきなおとし）さんにご指導いただいております。小崎さんは相模原市橋本を拠点に、多くの企業のイメージアップや地域活性化のため、様々な形でデザイン活動を精力的に展開されているブランディングデザイナーです。

当グループでは2014年から、新しいロゴマークの作成、パンフレットの作成など、多岐にわたって広報活動・情報発信等のご指導をいただいております。

今回は、当グループのブランディングや情報発信のあり方等について職員の渡辺が小崎さんにお聞きしました。



小崎直利
KOZAKIKAKU Inc.
代表取締役

ブランディングデザイナー。多摩美術大学情報デザイン学科卒業後、2007年より開業。2017年法人化。中小企業と地域活性のためのブランディング・デザインを行っている。企業や地域に潜在するまだ知られていない魅力資源を認識可能にすることを重視し活動している。日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）正会員/ブランド・プランナー協会理事/神奈川県6次産業化プランナー

渡辺：医療・福祉の分野では、「ブランディング」という概念はあまり浸透していない状況だと思います。「ブランディング」とは、そもそもどう理解したらよいのですか。

小崎：皆さんは、例えば「ユニクロ」というブランドを聞いて、特定の商品を連想したり、マーク、店舗、カラフルな商品、接客、CMなど様々なイメージを思い浮かべるはずですが、その全てが「ブランド連想」です。「ブランディング」とは、この「ブランド連想（らしさ）」を好意的に育てていく活動のことです。

渡辺：はたのグループとして、「ブランディング」をどのように実践していけばよいのでしょうか。

小崎：はたのグループのブランディングとしては、ホームページや各種パンフレット、施設の看板などに統一のイメージを展開しています。共通のロゴマークを作り、例えば

優しいピンク色などを展開することで、すぐに秦野病院の案内だと分かるようにしています。広報物などのデザインの他にも、先生や看護師さんの対応や職員さんの雰囲気にもブランド連想（らしさ）は及ぶため、グループ全体で一貫したポリシーができるとうれしいですね。

渡辺：小崎さんは、はたのグループの「らしさ」をどのようにお考えですか。

小崎：2014年にロゴマークのリニューアルをお手伝いした時には「心の笑顔」、「高橋幸枝理事長」、「ロケーション」の3つの「らしさ」に配慮してデザインを検討しました。

受診する人もサポートする人も、精神医療に関わる全ての人にとって共通のテーマである「心の笑顔」をシンボルにしました。ロゴマークをよく見ていただくと、「心」という漢字で笑顔を作っています。創業からグループを牽引されている高橋幸枝理事長は素敵な笑顔の持ち主です。

はたのグループのロゴマーク



秦和会 成和会



渡辺：このロゴマークは、グループ内でよく見かけるようになりました。職員の間でも親しみのある存在です。

小崎：法人のカラーを定めていて、医療法人である秦和会をピンク、社会福祉法人である成和会をライトブルーに決めました。これは秦野病院のそばにある桜並木と水無川から用いています。富士山や丹沢連峰を仰ぐことのできる秦野病院ならではの「らしさ」です。間もなく訪れる桜の花が咲く春に「はたのピンク」は一層輝かしくなるはずです。

はたのグループ「らしさ」を浸透させていくために、ブランディングを推進していくことは、とても大切なことだと思います。職員皆が「心の笑顔」を体現できれば、患者様、利用者様、ご家族皆様にも「心の笑顔」が広がることと思います。

今後も小崎さんのご指導をいただきながら、はたのグループとして果たすべき役割や有益な情報を、皆様にお届けしていけるよう努めてまいります。

はたのホーム・りんくにおける新サービス

対談メンバー | はたのホーム 管理者 岸 和紀
就労移行支援事業所りんく 管理者 石川雅一
相談支援事業所 こころの笑顔 管理者代理 近野千晶

はたのグループでは、障害をお持ちの方が、自らの望む地域生活を営むことができるよう「生活」と「就労」に対する支援を行ってききましたが、一層の充実を図るため、昨年11月より、はたのホームにおいて「自立生活援助」、就労移行支援事業所りんくにおいて「就労定着支援」という新たなサービスを開始いたしました。



Q

近野：現在まで行ってきた、はたのホームでの「生活支援」、りんくでの「就労支援」とは、どのような内容ですか。

A

岸：はたのホームでは、利用者様が地域で安心して生活していくための準備として、生活リズムを作っていくことや、身だしなみの確認、お部屋の掃除や整理整頓、服薬管理などを職員と一緒に確認しながら行っています。

利用者様それぞれの希望に合わせた個別支援計画を作成し、地域生活に向けた支援を行っています。

石川：りんくでも個別支援計画を作成し、経験豊富な精神保健福祉士を中心に、利用者様それぞれの特性に合わせた支援を心がけています。

導入、準備、見学実習、就活、継続という5つのステージを設けて、利用者様が常に自分の現在地を確認しながら進めるような仕組みをとっています。

障害特性や課題、対処方法など、利用者様が自分自身を説明する「自分取説」を作成していただいております。就活時や企業様の本人理解に役立つと好評をいただいております。

Q

近野：今回の新サービスである「自立生活援助」と「就労定着支援」には、どのような特徴がありますか。また、どのようなサービスを目指していきますか。

A

岸：「自立生活援助」は、グループホーム等から地域での一人暮らしへの移行を希望する利用者様に、1年間定期的な巡回訪問や随時の対応などで、ご本人の意思を尊重した地域生活支援・援助を実施するサービスです。

訪問の際には、掃除・洗濯・食生活や体調面、地域住民との関係、家賃等の支払い等について、困りごとはないか、

お話を伺い必要なアドバイスや連絡調整を行います。

地域での生活に不安を感じる利用者様が、独りではない、相談できる人がいるという安心感を持ち、地域生活が楽しいと思ってもらえるようなサービスを目指していきます。



石川：就職後6か月間に就労移行支援事業所が行う定着支援の努力義務に加え、6か月を過ぎた後も引き続き定着支援を行えるようになりました。

就労定着支援事業は、就労移行支援事業所が実施主体となるように制度設計されているため、利用者様にとっては、就職から3年6か月の間、間断なく関係性の出来ている事業所から

支援を受けることができるという大きなメリットになると思います。

りんくとしては、今まで以上に、障害をお持ちの方の職場定着率や勤続年数の向上を目指して頑張っていきたいと思っています。

近野：はたのグループで新たに2つのサービス「自立生活援助」と「就労定着支援」が新設されました。利用者様が、ご希望に応じて、自分らしい生活を実現できるよう、各々のサービスを選択して利用いただけたらと思います。



<シリーズ>
はたのグループのリーダー達 vol.3

子どもメンタルクリニック
佐藤 喜一郎 院長

TOP
 INTERVIEW

お子さんの発達障害（ADHD、アスペルガー症候群）や、学習障害（LD）、行動上の問題などでお悩みの皆様が数多く訪れる「子どもメンタルクリニック」。

長年にわたって、児童・青年精神医学の専門家として、数多くのお子さん達を診察されてきた院長の佐藤喜一郎先生に現在までの歩みを振り返っていただきました。



精神科を選んだ理由

昭和40年から44年は、学園紛争の時代で、インターン制度の廃止を巡って、医学部は揉めていた。我々の世代は医師国家試験をボイコットしたり、大学院をボイコットするなど荒れていた。

結局、インターン制度が廃止になったが、空白の一年があり、何科を選んだらよいか揉めた。自分は当時は、臓器移植を目指していたが、札幌医大の心臓移植問題が起こり、当分、生体臓器移植ができなくなり、臓器移植医療をあきらめた。散々迷った挙句、次に関心のあった心身医学（心身相関）、脳と精神を知りたくて、精神神経科を選んだ。

昭和43年に慶應大学病院の精神神経科へ入局した。しかし、当時の精神科は、精神分析中心で、精神薬理とてんかん医療しか脳と精神の研究をしていなかったため、今後、どの研究室を選んだらいいのか迷った。

丁度その頃、北里大学に医学部が設立され、三浦貞則先生の誘いに応じて、北里大学病院で働き研究することになった（昭和46年）。

しかし、北里大学は新設大で人が足りず、臨床に追われて、研究らしい時間が取れずにグズグズすることになった。

児童・青年精神医学

昭和40年代には、テレビが普及し、共稼ぎとカギっ子が増加し、登校拒否が増加しだした。登校拒否児の診察を

するにつれ、家族内コミュニケーションとテレビの影響が大きいことに気づいた。次いで飽食の時代になり、神経性無食欲症が増えたが、この疾病でも家族内コミュニケーションとテレビ放送の関係が大きく、家族内コミュニケーションにますます関心が増えた。

この頃より、児童・青年精神医学を専門とする決心がついた。丁度、平成元年に北里大学病院が東病院主体となったのを契機に、児童・青年精神医学を標榜することになった。

当然のごとく、発達障害児の受診が増加した。何故、発達障害が急増しているのか、発達障害児とのコミュニケーションをどうしたらよいか、ますます問題になった。特に脳機能の発達と症状の関連の解明が急務になった。

発達障害児の急増につれ、この分野の診療上の問題が浮かび上がってきた。殆どの児童診療機関が15歳で打ち切られ、16歳以上の発達障害児の診療のニーズに応じられる診療体制があまりにも少なく、それまでの診療にフィードバックがなされていないことも気になった。この頃に児童青年精神医学会の理事になり、この分野の充実に努力した。

平成16年4月に40年以上勤めた北里大学病院を退職し、医療法人社団泰和会にお世話になり、子どもメンタルクリニックを開設した。

あっという間に14年近く経過してしまった。まだ、目標にはほど遠いが、今後も全力でこの分野のよりよき診療を目指してがんばっていきたい。

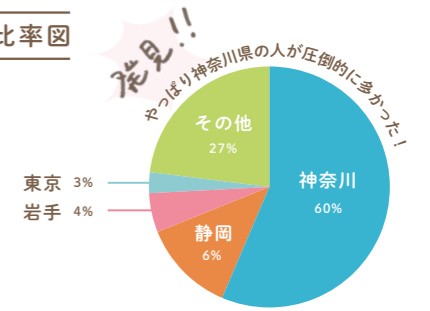
1分でわかる! みんなのあれこれ、質問してみました。

職員たちの **Q&A コーナー**

QUESTION & ANSWER

Q. あなたの出身県は？

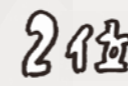
回答比率図



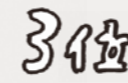
A.



1位 神奈川 86人
 方言は「じゃん」らしいです。「確かに言うじゃん」と思いました。



2位 静岡 8人
 黒はんぺんと桜エビがおいしいです。ちなみに白いはんぺんは静岡を出て初めて知りました。



3位 岩手 5人
 米、酒、海の幸、山の幸がおいしい。メジャーリーガーを2人も輩出している。

その他の県のおもしろエピソード

- 長野** 魚屋でなく、鯉屋がある。県民全員が県歌「信濃の国」を歌える。
- 青森** 青森の赤飯は甘い。
- 新潟** 山奥で肉屋や魚屋がなく、子供の時は自分で川で魚を取り、ウサギの世話をしてそのウサギを正月に食べました。



職員紹介 STAFF INTRODUCTION

はたのグループではたらくスタッフについてご紹介!



花のお世話、庭いじり、つくろい物などしています。



社会福祉法人 成和会 グループホームせせらぎ 施設長 勤続22年

柳原 由紀子 YANAGIHARA YUKIKO

仕事の楽しさは何ですか?
 衣・食・住と利用者様の生活の基本を支えることにやり甲斐を感じます。

はたのグループの良さは?
 情報共有がしっかりされている点と多くの若い職員が頑張っている点です。

最後に皆様に一言どうぞ
 グループホームせせらぎにどうぞお立ち寄りください。



昨年3月に引越しましたので、定期を使って今まで下車したことのない駅を探検しています。

秦野病院 薬局 副薬局長 勤続13年

高津 茂幸 TAKATSU SHIGEYUKI

仕事の楽しさは何ですか?
 病状が安定している患者様の笑顔を見られることが一番の喜びです。

はたのグループの良さは?
 はたのグループには、入院から社会復帰までを担える多くの部署・事業所があることです。

最後に皆様に一言どうぞ
 薬のことで気になることがある方は遠慮なく薬局までご相談下さい。

はたのグループの事業所

DEPARTMENT INTRODUCTION



1. どのようなことを行っている事業所(部署)ですか？
2. 事業所(部署)の売り・強みは何ですか？
3. 事業所(部署)の雰囲気はどのような感じですか？



入院治療

医療法人社団 秦和会

秦野病院 栄養課



- A**
1. 主な業務は、①栄養管理(メディカルサービス)②給食管理(フードマネジメント)③食事提供(フードサービス)です。
 2. 「食べる」という、生きている限り必ず行うべき行為に従事していることです。「健康の源は日々の食事から」
 3. とても仲良く、患者様に喜ばれることを第一に考え、皆で頑張っている非常に雰囲気が良い部署です。お互いがどうしたいか何が困っているかをはっきり伝えて、最善策を考えていける部署です。



リハビリテーション

医療法人社団 秦和会

秦野病院 デイケア



- A**
1. こころの病を持つ方のリハビリの場で3つのプログラムを運用しています。日常生活支援プログラムは、生活リズムを整え、集団での活動の基礎を身につける事を目的としています。プレワークは、活動する体力やセルフケアの力を身につけ、就労準備することを目的とし、リワークは、うつ病で休職している方の復職支援を目的としています。
 2. 看護師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士のスタッフが揃い、多様な視点でフォローしています。笠原院長のセンスで選定した肝いりのテーブルや家具も利用者様に好評です。
 3. 様々な利用者様がいらっやあって、にぎやかであります。それぞれの病状や考えをスタッフ・利用者様皆で受けとめながら、励まし合える環境です。



就労支援

社会福祉法人 成和会

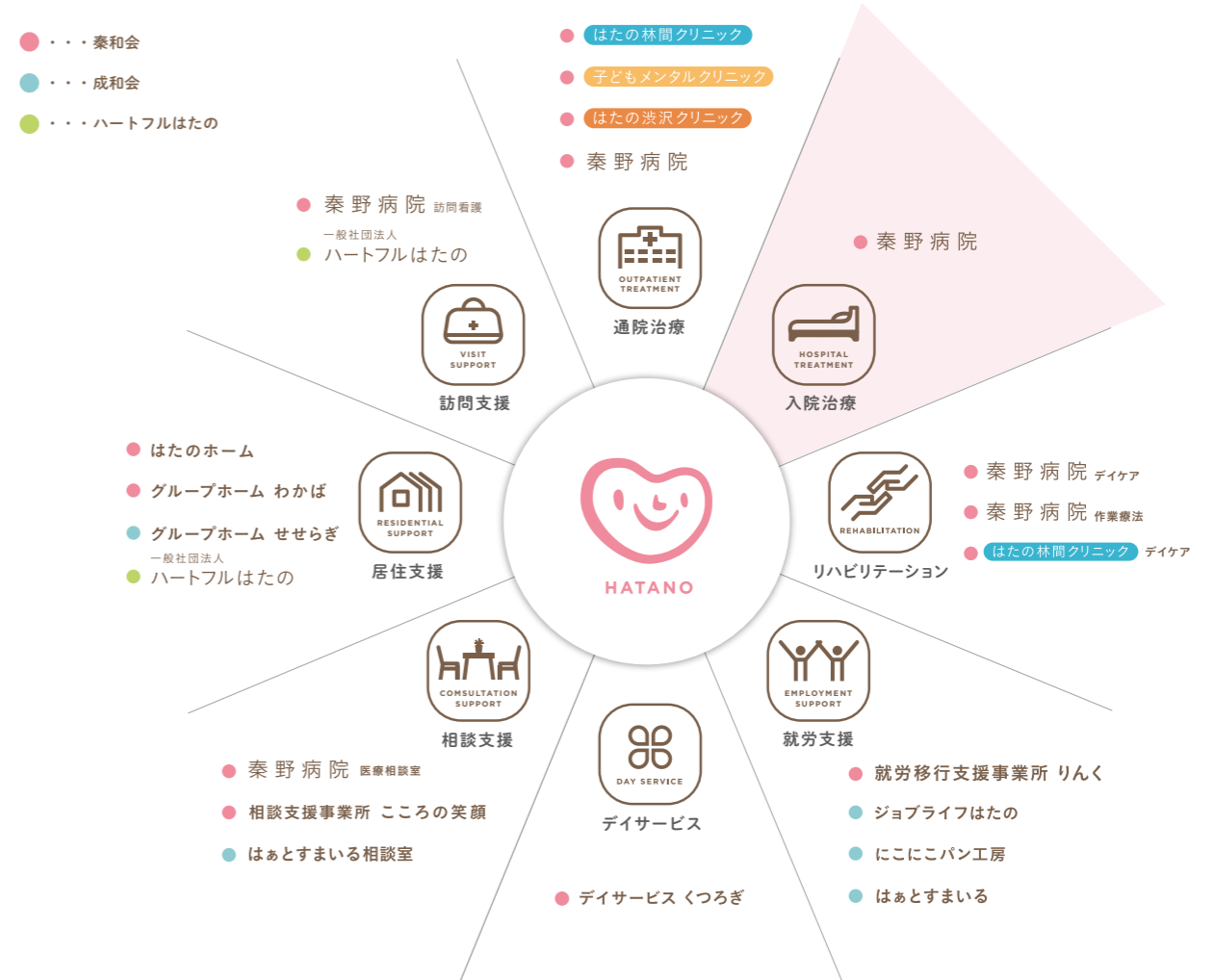
はあとすまいる



- A**
1. 海老名市内で就労継続支援B型のサービスを提供しています。パンの製造、販売、接客が主な作業内容となります。事業所内店舗だけでなく、海老名総合病院でカフェの運営をしたり、各所へ出張販売も行なっています。利用者様一人一人が自分のペースで働いたり、一般就労のための準備をすることをサポートする場です。
 2. 開所して約2年半が経ち、地域に徐々に認知して頂いていると思います。様々な種類の作業を切りだして、多様な利用者様に活躍してもらえよう配慮しています。
 3. 利用者様・スタッフが一緒になって、時にはワイワイガヤガヤ、時には忙しさの中で一丸となって、日々お店を創っています。

はたのグループのサービス 安心のサポート体制

心の悩みをお持ちの方のためにわたしたちのサービスをご活用下さい。



一秦野病院の入院治療について一 秦野病院 診療部 医局長 新井綾子



当院では四つの病棟があり、急性増悪期、亜急性期、安定期、老年期と患者様の状態に合わせた病棟で療養していただいております。

多職種間で連携し、退院後の生活も視野に入れたきめ細かいケアを心がけています。

まずは、秦野病院 医療相談室にお問い合わせください。
この他にも地域の社会資源と多様に連携しています。

お問い合わせ **0463-75-0032**